

歌ノレノ래 146 『ピンデトック紳士（シンサ）』 山根俊郎

はじめに

韓國の大衆歌謡には、コミックソング（*comic song*・コ믹 송）というジャンルがある。聞き手を笑わせることを目的につくられた歌である。日本植民地時代である 1930 年代に多く作られて歌われた。金貞九が歌った『王書房恋書』（1938 年・作詞金振門・作曲朴是春）、『総角陳情書』（1939 年）などが有名であり、「漫謡」と呼ばれた。女性歌手朴響林（パク・ヒヤンリム）が歌った流行歌『お兄さんは風角ジェンイ』（오빠는 풍각쟁이야朴英鎬作詞・金松奎作曲 1938 年 12 月コロムビア 40837A）などおもしろい作品もある。

それらにはユーモア（諧謔）とちょっぴり風刺が盛り込まれており、当時の大衆社会を斜めに垣間見ることができる。

1945 年解放以後、韓国は朝鮮戦争（1950～1953 年）などの激動の時代を迎えたが、1950 年代のコミックソングの大ヒット曲である『ピンデトック紳士（シンサ）』（빈대역 신사・作詞백운악ペク・ウンハク・作曲양원배ヤン・ウォンベ・歌한복남韓福男）を今回は紹介したい。

歌詞

♪洋服を着た紳士が
料亭の門の外でムチで打たれてる
なぜ打たれているのか?
なぜ打たれているのか?
原因はただひとつ 金がない
入る時は格好よく入ったが
出る時には金がなく慌てふためき
裏門からコソコソ逃げようとして
ムチで打たれてる
ムチで打たれてる
*ウハハハ 笑う
イヒヒヒ 笑っててしまう
ホホホ 笑う

ウェ~~~~ 笑ってしまう
ワヒヒヒ ウハハハ 笑う
金がなければ家に帰って
ピンデトックでも焼いて食べな
一文無しの道楽者が
料亭に何の用か
妓生（キーセン）遊びが何だ

♪父親が築いた貴重な財産を
全部食いつぶしてしまい
最後には最後には
洋服を着て料亭ばかり
見かけは品の良い紳士のようだが
ポケットには一文もない本当の道楽者
料理を食べて酒を飲むときは
格好よかつたが
ムチで打たれるザマだ
ムチで打たれるザマだ
*ウハハハ 笑う
イヒヒヒ 笑っててしまう
ホホホ 笑う
ウェ~~~~ 笑ってしまう
ワヒヒヒ ウハハハ 笑う
一文無しの道楽者が
料亭に何の用か
妓生（キーセン）遊びが何だ

『ピンデトック紳士』ストーリー

このように『ピンデトック紳士（シンサ）』は、ピンデトック〔緑豆（ノクト）の粉で焼いたお好み焼き〕が好きな紳士…？ではなく、金もない貧乏な紳士？なら家に帰ってピンデトックでも食べときなさい！という罵りの意味である。

この歌の内容から物語を想像したおもしろいコラム記事があったので紹介したい。

<http://www.hani.co.kr/section-021087000/2002/11/021087000200211270436014.html>

月刊誌「ハンギョレ21」2002年11月27日
(水) 第436号

[キム・ハクミンの飲食の話 ピンデトック紳士を追憶する]

想像力で再構成してみたピンデトック紳士の一代記・・・アリランピンデトック食堂のシコシコした味の秘訣

“金がないなら家に帰ってピンデトックでも焼いて食べな”

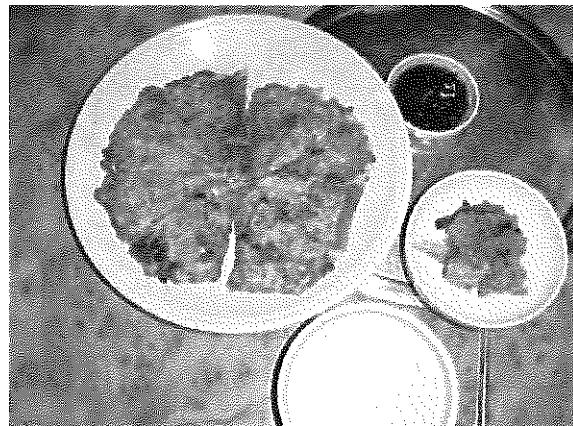
韓福男が作詞・作曲して自ら歌ったくピンデトック紳士の一節である。なぜかノレバン(カラオケ)で画面に出てくる歌詞を見て、この歌を歌うときに私はいつもこの‘紳士’の人生をひとり追跡してみる。

この紳士は、旧韓末または日帝初期の時代にある田舎の金持ちの家の一人息子であつたであろう。父母の寵愛を一人占めして育つたが、他の金持ちの坊ちゃんと異なり、品行方正であった。いち早く「京城」(原文のママ 경성: キョンソンと表記している)に留学して培材高普(高等普通学校)に通い、西洋のキリスト文化と日本の新しい文物に接して高普在学中に父母の強い勧めで一度も会ったことのない頑丈な体の田舎の娘と結婚したが、新婚生活を楽しむよりも友達と派手な「京城」の夜の街を遊びまわった。高普を卒業する頃に父親が病に倒れて亡くなると彼は急に大きな家族を率いる金持ちの家の戸主になった。最初の一年間は小作人たちを催促して地主としてうまく処理したが、しばしば「京城」に行くたびに“こんなはずではなかった”という思いが脳裏に浮かんだ。

ついに田畠の一部を売りはらい、友達と共に鉱山業を始めた。しかし、うまく行かずには田舎の田畠の切り売りを続けた。接待で総督府の官吏たちと毎日のように妓生(キーセン)のいる料亭に入りするようになり、事業はおろそかになった。そして何年か過ぎて見ると鉱山の採掘権はいつのまにか共同経営者であった友達の手に渡り、紳士に残ったのは万里載(万里峠)を越えた所の三部屋のあばら家と粕汁と米ぬかをいっしょに食べる妻と子供5人だけであった。

ある日、紳士は、特に用事もなかったが妻と子供たちと一緒に、顔を合わせるのもつまらなくて城内に出かけた。なにげなく鐘路の裏の路地を歩いていると以前によく出入りした料亭が目に付いた。ため息についてそのまま通り過ぎようとしたが、ふと「自分がこの家でつきあい酒(교제 술)のために売り払った田畠が何町歩になるのか! それを考えれば酒の一杯ぐらいおごってくれるだろう」と考えた。大きく咳をして、入ってみると妓生たちは事情もよく分からずにそそかしく足袋をはいて出迎えてくれた。料理を頼み、正宗(정종: チヨンジョン=日本酒の総称)のヤカンを数個空けてほろ酔い気分で「酒代はツケ(외상: ウェーサン)だ!」と叫ぶと今まで愛嬌をふりまいて媚びていた妓生たちの目つきが変わった。事業に失敗したとは言え、金持ちは滅んでも3年は持ちこたえる、という言葉もあるが、この紳士は金玉(불알: プラル)ふたつだけしか持っていない。料理の代金を貰えずに哀れにも大門の外に追い出されたこの紳士の背中に妓生たちは腹癪せに罵声を浴びせかけた。「エーイついていない! 金がないなら家に帰ってピンデトックでも焼いて食べな 妓生の家になぜ来たの」

以下、アリランピンデトック食堂の紹介記事の翻訳は省略します。(文中の写真です)



楽譜

『ピンデトック紳士』(반대역 신사)の楽譜『韓国歌謡』1979年世光出版社 P768 - 769を次ページ(P3~P4)に掲載する。

『ピンデトック紳士』

빈대떡 신사

목스 · 트로트

Chords:

- Cm:** X (x) O (o)
- Fm:** X (x) O (o)
- G7:** X (x) O (o) O (o)
- C:** X (x) O (o)
- F#:** X (x) O (o)
- G7 (b7):** X (x) O (o) O (o)

Lyrics:

복남 앙원 배한복남
작곡 노래

양아복버 임지운가 신사려준 가준
리집

물앞에서 매를 맞는 며 테고
전제사울 다털어 먹에 맞지막에

왜마 맞을까 원차 인은 한없이 가지서 돈털령덜

어령 들어갈때는 뿐을내며 들어가더니
걸으로는 의젓하신 사갈지

나주 물적에 돈이없어 절절매자 가달 물을로
머니에 한푼없는 새빨간건 가달 물을로

살술 금마 실실금 도기 많분치 좋다지 가만
풀밭을 맞는 누이

この楽譜集には、『ピンデトック神士』(빈대역 신사・作詞ペク・ウンハク・作曲ヤン・ウォンベ・歌韓福男 1948年)と記されており、解放直後の1948年に製作された、としている。

しかし、先ほどの記事にも言及されているとおりに歌手である韓福男(한복남)が『ピンデトック神士』を作詞・作曲して自ら歌つた、のが事実のようである。

日本のカラオケであるUGS neonシリーズの「korean Songs VOL.1」(08年10月版)にも「빈대역 신사」(文なし紳士) : 한복남 8505-67として収録されていて画面には「作詞・作曲=韓福男」と表示されている。

韓国のシェアを二分する代表的なカラオケであるテジンミディア(株)=태진미디아(주)の機種 Ziller.co.kr では、「빈대역 신사」番号(1203)に収録されている。

もう一方のクムヨン(금영)株式会社の「クムヨン歌の目次」では、「빈대역 신사」番号(895)に収録されている。

歌手 韓福男(한복남)

さて、歌手 韓福男についてみていただきたい。韓国のヤフーで検索すると、「百科事典」に次のような記事があった。

韓福男(한복남) 1919.6.25~1991.1.26

歌手。平安南道安州で出生。故郷で洋服店を経営していたが歌手を志望して移動演芸団に加わり活動を始めた。8・15(1945年・解放)の後にソウルに南下して金海松(김해송)・ヘソン、김해송=作曲家。後に越北したために多くの作品が韓国で禁止曲になる)のKPK樂劇団の舞台で『ピンデトック神士(シンサ)』(빈대역 신사)、『日暮れの忠武路』

(저무는 충무로)を歌い、この曲を1948年に吹き込み歌手としてデビューした。歌手だけでなく、作曲家として活動したが、1951年『香港アガシ』(홍콩 아가씨)、『水車の回る来歴』(물레방아 도는 내력)を作曲したのに続き『オドンドン打令』(오동동 타령)、『恨多い大同江』(한 많은 대동강)、『仏国寺の夜』

(불국사의 밤)、『娘船頭』(처녀 뱃사공)など600余曲に達するヒット曲を作曲して、『葉錢十五両』(엽전 열단 냥)、『旅人 夜の街』(나그네 밤거리)などは自ら歌まで歌い大きな人気を得た。

*山根注:『韓国歌謡』1979年世光出版社によれば①『香港アガシ』(홍콩 아가씨)李在鎬作曲 1952年

②『水車の回る来歴』(물레방아 도는 내력)李在鎬作曲 1953年

とあり、この2曲は、韓福男作曲ではなく、李在鎬作曲が正しいようである。

まさに1950年代のヒット曲を多く作曲している。韓福男は、最初は歌手としてデビューした後に作曲家に転向して成功した。

次に私(山根)の秘蔵資料である『韓国演芸大鑑』(1962年・成栄文化社)を見てみよう。「歌手名鑑」ではなく、「歌謡作家名鑑」に分類されている。P289

韓福男(作曲)

住所:ソウル城東区

下往十里洞56の3

電話:⑤8840

年齢:42歳

出身:平安南道安州

本名:韓榮順

経歴:15年

曲:『オドンドン打令』(오동동 타령)



△韓福男△

『ペルシャ王子』(페루샤王子)

『白馬江』

『恨多い大同江』(恨많은 대동강)

『本当の風あなたの風』(본바람 님바람)

『ハマナスの愛』(海棠花사랑)

『娘船頭』(처녀 뱃사공)

『私のタンゴ』(나의 탱고)

『陽山道マンボ』(양산도 맘보)

『ピンデトック神士』のレコード吹き込み時期

前述の「百科事典」の『ピンデトック神士』(빈대역 신사)、『日暮れの忠武路』(저무는 충무로)の「1948年吹き込み説」については、最近の研究の結果、退けられつつある。

少し時期が遅れて、「1950年吹き込み説」が有力になりつつある。

韓国のインターネット放送「80年代の歌謡専門音楽放送・歌謡114」のHP「音楽コラム」に

「音楽の話」(음악 이야기)というコーナーがある。

<http://www.gayo114.com/musicColumn/musicColumnMStory.asp>

2000.12.7から第1回が始まり 2007.12.7まで第96回まで連載されている。執筆陣は신현준, 이영미, 이준희, 장유정, 박애경, 김병오などである。이영미(イ・ヨンミ)氏は有名である。その内で이준희(イ・ジュンヒイ)氏は、古いレコードのラベルや新聞広告を収集・分析して歌謡の発表年度を割り出している。すばらしい研究である。



ソウル大学校大学院東洋史学科修了

現在 韓国学中央研究院博士課程

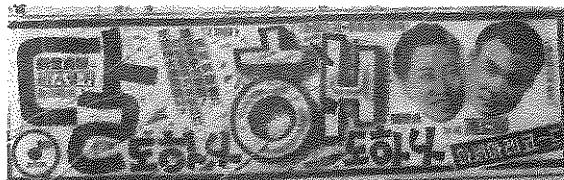
「死の贊美(他)」2006年

「日帝侵略戦争に動員された流行歌、

이준희 「軍国歌謡を再び見る」2003年など

이준희(イ・ジュンヒイ)氏が執筆した第95回(2007.11.06)『光復以後 留声機製作社列伝(6) - アセアレコード(아세아 레코드)』に『ピンデトック神士』は、1950年5月か6月に発売か?と推測している。

<http://www.gayo114.com/musicColumn/musicColumnMStoryView.asp?no=410>



アセアレコードから発売された南仁樹の『月もひとつ 日もひとつ』(달도하나 해도 하나)の新聞広告(1949年6月)

ラッキーレコードとソウルレコードに続き、やはり1949年に登場した音盤会社にアセアレコードがある。このアセアレコードは、1959年ころに登場した同じ名前の音盤会社とは名前が同じだけで何の関係もない。当代最高の人気歌手である南仁樹(남인수)が直接、設立して運営した。(中略)アセアレコードから発売されたレコードは番号が1001から始まる。最初の作品は、南仁樹の『月もひとつ 日もひとつ』(달도하나 해도 하나)(1949年6月)であった。(B面は張世貞(장세정)の『百八念珠』)1001から1002、1003と続いた。

現在、確認が可能なのは1950年4月に発売された韓福男の『日暮れの忠武路』(저무는 충무로)である。(B面は張世貞(장세정)の『泣いて笑う娘の夢』(울고 웃는 처녀몽)である)残念ながらレコードには番号が記されていない。



韓福男の『日暮れの忠武路』(저무는 충무로)のレコードラベル

アセアレコードから発表された大衆歌謡の作品は明らかなもので10曲あり、『ピンデトック神士』(빈대역 신사)のような曲もやはり、1950年5月や6月頃にアセアレコードから発売された可能性が高く、アセアレコードから出されたレコードは最少でも10枚程度になるものと見られる。(中略)

南仁樹が直接設立して運営したアセアレコード(아세아 레코드)は、新人歌手玄仁(ヒョン・イン、현인)を押し立てて先行するラッキーレコード(럭키 레코드)に押されて運営が苦しかった、と伝えられる。韓福男がアセアレコードを通じてデビューしたことは注目されるが、やはり玄仁

に対抗するには役不足であった。そして、6・25 戦争が起ったためにアセアレコードはこれといった業績も残せないまま跡形もなく消えてしまった。多分、戦争が起らなくても存続が難しかったと思われる。

歌手 韓福男のヒット曲

1950 年 5 月から 6 月にアセアレコード(아세아 레코드)から発売された『ピンデトック神士』は戦争も勃発して、結局は不発に終わった。では、『ピンデトック神士』は、いつ頃から広く世間に知られるようになつたのであろうか？

おそらく、『オドンドン打令』(오동동 打令)、『ペルシャ王子』(페루샤王子)を作曲した 1954 年頃から『葉錢十五両』(엽전 열단 냥) 千峰作詞・韓福男作詞・韓福男歌が大ヒットした 1955 年頃に再度『ピンデトック神士』をレコードに吹き込みヒットしたのではないだろうか？

最後に、韓福男の歌手としてのレコードジャケットを掲げる。



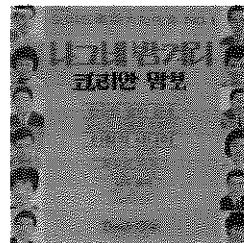
(1962 年) 都美都歌譜アルバム第 2 集
黄貞子、韓福男、金用萬ほか
韓福男 : 『ルリララ』(루리라라)



(1962 年) 都美都フルロガソメロディーヒットアルバム第 1 集琴サヒヤン、安多星ほか韓福男 : 『ピンデトック神士』



(1962 年) 都美都フルロガソメロディーヒットアルバム第 2 集 安多星、韓福男ほか
韓福男 : 『日暮れの忠武路』



(1962 年) 韩福男『旅人 夜の街』、金貞九『コリアマンボ』



(1965 年) 韩福男『他郷の手紙』 (타향의 편지) ほか



(1970 年) フルロガソヒットソング韓福男
対朴載弘

1. 『葉錢十五両』 (엽전 열단 냥)
 2. 『マンボ打令』 (맘보타령)
 3. 『日暮れの忠武路』 (자무는 충무로)
 4. 『あわび打令』 (전복타령)
 5. 『ピンデトック神士』 (빈대떡 신사)
 6. 『マンボ チャチャチャ』 (맘보 차차차)
- この 6 曲が歌手韓福男の代表曲である。

(終)